

南島原市ニュース

令和7年9月29日

タイトル

アーティスト・イン・レジデンス事業のお知らせ

アートビレッジ・シラキノ事業において、令和7年度南島原市アーティスト・イン・レジデンス（AIR）事業を実施します。

今回、全国公募により選考をした版画家2人が、10月1日～12月7日までの約2カ月間の滞在期間中に、制作活動のほか、ワークショップなどの地域交流活動を行います。

●招へい作家氏名[出身地]（版種）

- ・田口 薫氏[埼玉県]（木版）
- ・ウェン ジェン リン氏[台湾出身、石川県在住]（銅版）

●AIR事業招へい作家 就任挨拶

日 時：10月9日（木）午後4時～

場 所：西有家庁舎 2階応接室

出席者：招へい作家（2人）、シラキノエディュケーター池田、
市長、副市長、教育長ほか

担当部署	教育委員会生涯学習課	担当者	猿渡 忠敬
直 通	0957-73-6703	E mail	shakaikyouiku@city.minamishimabara.lg.jp
詳しくは 			
担当者 連絡先			

刻それは一枚の銅版画から始まったまれた記録 + 刷Scatched historys Printed memories
"It was begun from small piece of engraving"られた記憶

この度南鳥原市アートビレッジ・シラキノでは「ながさきビース文化祭 2025」関連企画として南鳥原市で約 430 年にわたって、分断と再生を繰り返し、継承されてきた版画文化の現在を紹介する展覧会【刻まれた記録 刷られた記憶 -それは一枚の銅版画から始まった-】を開催いたします。

✦ 南島原市は日本人の手による最初の銅版画の1枚「セビリヤの聖母」が制作された街です。

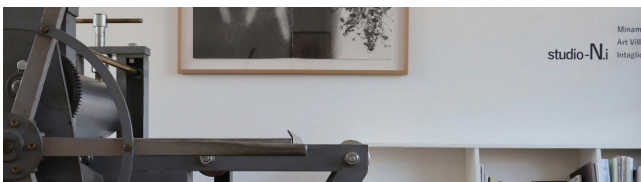
今から約 430 年前、当時のキリスト教イエズス会は布教と教育のための書物を出版するために現在の南島原市に日本で初めての西洋式活版印刷所を開設しました。そこで使用された人類の 3 大発明にも数えられるグーテンベルク式の金属製活版印刷技術。その技術と共に挿絵や図像を印刷する技術としての地にもたらされたのが銅版画です。その後銅版画はセミナリヨと呼ばれる製版機関で日本の若者たちへと教授され、最優秀のテクノロジとして、そして新たな表現の可能性を秘めた芸術分野へと花開きかけました。しかし残念ながら、時を同じうして始まった精力者達による苛烈な宗教弾圧によって、わずか数十年で他の多くの西洋文化と共に陰影もなく消し去られてしまいます。そしていつしか人々の記憶からも忘れ去られ、歴史の塵に葬り去られてしまっただけにみえます。しかし銅版画は滅びてはいませんでした。この土地に刻まれた「記録」として息を潜め、400 年もの間、人々がもう一度アクセスしてくれることを待ち続けていたのです。

「セリアの聖母」制作の400年後の1997年この「記録」をもう一度この地の人々の現在進行形の「記憶」として甦らせた人がいました。長崎にゆかりのある銅版画家 渡辺千尋です。「セリアの聖母」と自身とのいくつも運命的な共通点に導かれた渡辺は強い使命感に駆られ、幾多の困難を乗り越えその版画を当時の技術そのままに再現し時のローマ教皇へと献上します。この渡辺による再現事業は当時の有名人（現在の南島原市）の人々の記憶に深く刻まれました。渡辺によって忘れられた銅版画家という「記憶」は現在進行形の子供たちの「記憶」として再生されたとあります。そしてこの出来事が南島原市の新たな版画文化の幕開けとなりました。渡辺によって現在進行形の「記憶」となったこの版画文化は、渡辺の死後、中林忠良、野田哲也を始めとする彼の意志を継ぐ版画家や市民によって引き継がれ「セミナリヨ現代版画展」、「南島原市アートブリッジ・シラキノ」という形で現在まで30年以上にわたって南島原市の文化として発展を続けています。

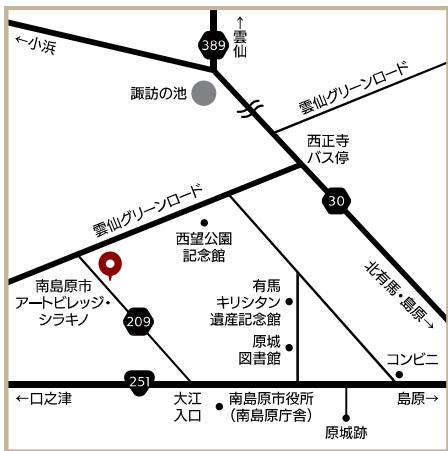
※本展では430年前の名もなき版画家[An unknown printmaker]による「セビリアの聖母」の誕生と、時を隔てた渡辺による再生を起点に【第1章 それは一枚の銅版画から始まった】【第2章 記録は刻まれ土地の記憶となった】【第3章 記憶は剛られ文化となった】【第4章 そして文化は土地に再び刻まれる】として4章立ての新たな物語として語り直すことを試みます。

430年前から時代を跨ぎ多様な文化的背景もった版画家達と市民によって継承されてきた、この地に「刻まれた版画の記録」と、それを再生し新たな文化として再び歩み始めた「剛られた版画の記憶」、そしてそこから新たに紡がれていくであろう「未来の版画の萌(きざし)」をぜひご高覧ください。

- ◆主催：文化庁・厚生労働省・長崎県・第40回国民文化祭・第25回全国障害者芸術・文化祭 長崎県実行委員会、
第40回国民文化祭・第25回障害者芸術・文化祭 南島原市実行委員会
◆共催：南島原市アートビレッジ・シラキノ、南島原市教育委員会生涯学習課



✕ MINAMISHIMABARA Art Village-Shirakino 1F "Studio N.i."



ACCESS

- ✕ Minamishimabara Art Village Shirakino

〒859-2413

1795 Minamiarima-cho, Minamishimabara City,
Nagasaki Prefecture

CONTACT : TEL +81 957-85-3055

OPENING HOURS : 10:00-18:00

CLOSED : Every Monday

PARKING : Maximum 10

- × 南島原市アートビレッジ・シラキノ

T 859-2413

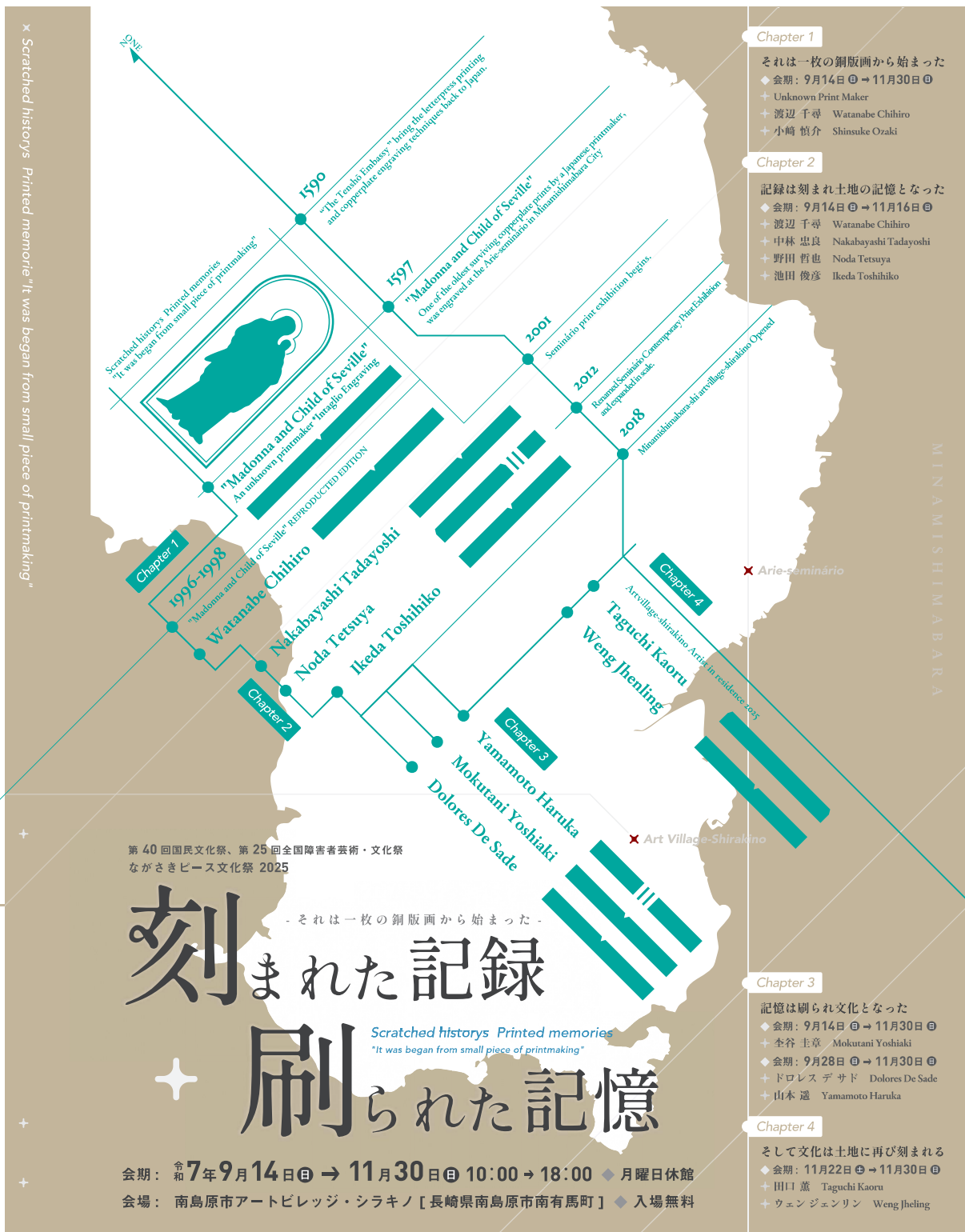
長崎県南島原市南有馬町丙1795番地

問合せ先：TEL 0957-85-3055

開館時間：10:00→18:00

休館日：每週月曜日

駐 車 場：最大10台
W E B： <https://www.artvillage-shirakino.jp/>



Chapter 1 An unknown printmaker / 渡辺 千尋 / 小崎 慎介 会期: 9月14日㊦→11月30日㊦

第1章 それは一枚の銅版画から始まった

「セビリアの聖母」を制作したのは神学校セナリヨに設立された「画学舎」と呼ばれる日本最古の西洋式美術教育機関に学ぶ名前もなき生徒だったと推測されています。本章ではその最初の銅版画家を「An unknown printmaker」と名付け、時を超えて彼に同化するようにして実現した渡辺千尋による「セビリアの聖母」の再生のプロセスを、レプリカと渡辺の手による再現、本市に保存された貴重な原版と写真資料、そして愛用の道具を通じて振り返ります。さらに【430年前の銅版画＝印刷物】【印刷物＝記録の伝達装置】という視点から自身も版画家でありデザイナーでもある小崎慎介による南島原市の版画文化の歴史と継承をテーマにした樹形図を、印刷物として提示し、「セビリアの聖母」と400年後渡辺の再生が南島原市の版画文化に果たした【起点】としての役割を視覚化します。

+ Unknown Print Maker



〈セビリアの聖母〉

× "It was begun from small piece of printmaking"

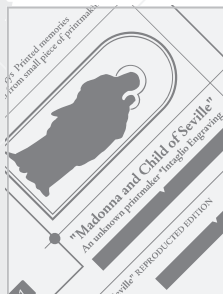
× "Madonna and Child of Seville" REPRODUCED EDITION

+ 渡辺 千尋 Watanabe Chihiro



〈セビリアの聖母・復刻〉

+ 小崎 慎介 Shinsuke Ozaki



〈南島原版画文化系譜図〉

× Arie-seminário

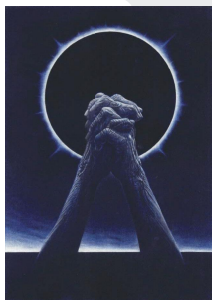
Chapter 2 渡辺 千尋 / 中林 忠良 / 野田 哲也 / 池田 俊彦 会期: 9月14日㊦→11月16日㊦

第2章 記録は刻まれ土地の記憶となった

「セビリアの聖母」の再生後南島原市の版画文化の発展に尽力していた渡辺は2009年64歳という若さで志半ばで亡くなります。その渡辺の意志を引き継いだのは生前渡辺から南島原市の版画文化の発展を託された銅版画家の中林忠良、中林の盟友で版画家の野田哲也、そして中林と野田の教え子で南島原市アートビレッジ・シラキノを立ち上げ現在もその運営に携わっている銅版画家、池田俊彦です。

第2章では渡辺とその継承者3人の作品を通して南島原市の版画文化の継承と発展の歴史を提示します。

+ 渡辺 千尋 Watanabe Chihiro



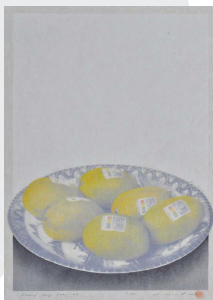
〈大地の祈り〉

+ 中林 忠良 Nakabayashi Tadayoshi



〈Transposition 転位Ⅲ〉

+ 野田 哲也 Noda Tetsuya



〈日記: 2023年8月7日〉

+ 池田 俊彦 Ikeda Toshihiko



〈The melting self portrait〉

Event 版画にまつわる二つの対話

9月14日㊦ 13:00→14:00 ◆ セビリアの聖母と渡辺千尋 / 語り: 渡辺紀子 [渡辺千尋夫人] / 司会: 池田俊彦

9月14日㊦ 14:30→15:30 ◆ 中林忠良 × 野田哲也 [対談] / 司会: 池田俊彦

Chapter 3 空谷 圭章 会期: 9月14日㊦→11月30日㊦ + ドロレス デ サド / 山本 遥 会期: 9月28日㊦→11月30日㊦

第3章 記憶は刷られ文化となった

南島原市はかつて日本でも有数の国際都市でした。この土地の版画の歴史の始まりはこの国際的な地政によって育まれたといえます。第3章ではイギリス人版画家ドロレス デ サド、現在日本で最も注目を集めている銅版画家の一人である空谷圭章、そして島原半島出身で現在も同地を拠点に版画も応用した染色技術で制作活動を展開している山本遥、この3人の作家が会期中に滞在制作を実施、グローバルな視点、日本からの視点、そして地元からのローカルな視点から見た南島原市の版画文化をリサーチし先人達が「記録」してきた版画文化を現在進行形の「記憶」として再構成します。

+ 空谷 圭章 Mokutani Yoshiaki



〈Two water streams #1〉

◆ リサーチ滞在: 5月19日→5月21日
◆ 滞在制作: 8月9日→8月19日
◆ 滞在制作: 9月8日→9月10日

+ ドロレス デ サド Dolores De Sade



〈The Sixth Labour of Hercules〉

◆ 滞在制作: 9月1日→9月30日

+ 山本 遥 Yamamoto Haruka



〈石を積む〉

◆ 滞在制作: 9月1日→9月30日

Event ワークショップ

9月23日㊦ 13:00→18:30 ◆ ドロレス デ サド

Event アーティストトーク

9月28日㊦ 14:00→15:00 ◆ ドロレス デ サド / 山本 遥

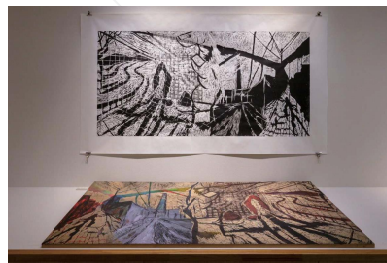
Chapter 4 田口 薫 / ウェン ジェンリン 会期: 11月22日㊦→11月30日㊦ × Artvillage-shirakino Artist in residence 2025

第4章 そして文化は土地に再び刻まれ始める

南島原市アートビレッジ・シラキノでは2018年より版画技術を活用した芸術家を対象にアーティスト・イン・レジデンス事業を実施し、これまでに30名以上のアーティストを招聘してきました。その間リサーチや展覧会、ワークショップを通じて地域社会と様々な交流が生まれ、70点近い寄贈作品が市の知的財産として蓄積され広く市民へと公開されています。当事業は現在、渡辺の立ち上げた「セナリヨ現代版画展」と並び南島原市における版画文化の中核をなしていると言えるでしょう。

第4章では公募によって選ばれた若手作家、田口薫、ウェン ジェンリンを展覧会会期中に招聘し滞在制作を実施しその成果展を本展の最終章として提示します。「An unknown printmaker」と渡辺千尋から始まり長い年月をかけ様々な版画家と市民によって訪がれてきた版画文化を、南島原市の未来へと繋がる新しい「萌（きざし）」として刻む試みです。

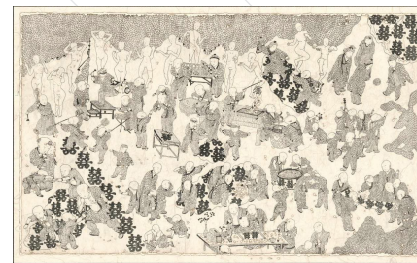
+ 田口 薫 Taguchi Kaoru



〈光の跡、逡巡する影〉

◆ 滞在制作: 10月1日→12月7日

+ ウェン ジェンリン Weng Jhenglin



〈百子図〉

◆ 滞在制作: 10月1日→12月7日

Event ワークショップ

11月9日㊦ 14:00→18:00 ◆ 田口 薫

11月29日㊦ 14:00→18:00 ◆ ウェン ジェンリン

Event アーティストトーク

11月23日㊦ 14:00→15:00 ◆ 田口 薫 / ウェン ジェンリン